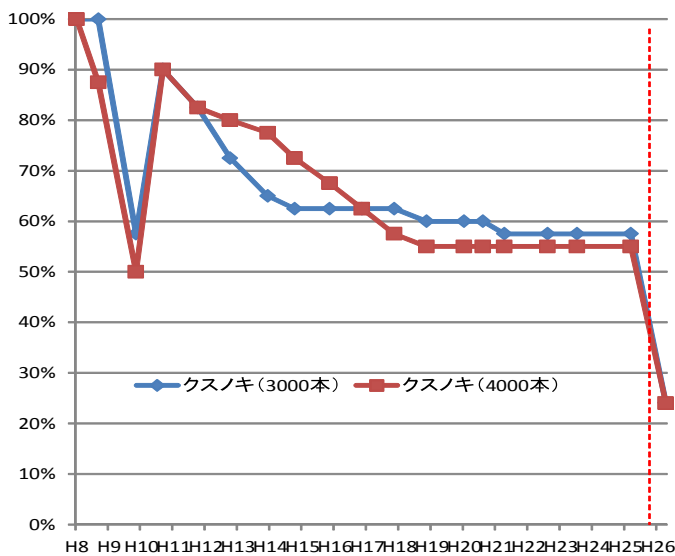


樹種名	クスノキ	
科 目	クスノキ科	
学 名	<i>Cinnamomum Camphora</i>	
分 布	関東以西の本州、四国、九州、国外では朝鮮半島（済州島）に自生している。	
樹木特性	半陰樹であり、閉鎖された林冠下の暗い環境下でも生育することができる耐陰性がある程度もっている。生育環境が良好な場合は、寿命は最大樹齢が 100 年以上と推定され、埋土種子は休眠するが寿命は短い。	
用 途	全体に樟脳を含み香気を放ち、材は成長の早い割には堅いので古くから仏像・器物類・高級家具材として愛用されている。	
植栽本数/面積 (植栽密度)	949 本／0.27ha (3,500 本／ha)	
特 徴	【樹 形】 常緑広葉樹で幹周囲 10m 以上の巨樹になる個体も珍しくない。単木ではこんもりとした樹形をなす。 木肌は綿密で、耐湿・耐久性に優れている。葉はつやがあり、革質で、先の尖った楕円形で長さ 5~10cm。4 月末から 5 月上旬にかけて大量に落葉する。 植栽適地は温暖多雨で、標高 500m 以下が適している。寒風、霜害の多いところは適地ではない。土壌が深く、腐植を含む膨軟肥沃又はれき質壤土が適地であり、日当たり良好な中腹以下の緩斜地が良い。三行脈の分かれ目のふくらみにはダニが入っており（ダニ部屋・ダニ袋）、葉の裏の針の穴ほどの入り口から出入りしている。日本ではダニ部屋を持つものはクスノキだけである。	  
試験地での様子	ポット苗を植栽し、植栽後 2~3 年目に凍霜害等により植栽木の約半数が枯死したため補植を実行した。また、植栽後にコウモリガやカミキリムシ類の穿孔被害が発生した。現存率は 24 %と低い結果となったが、現存する個体の成長状況は大変良好である。	
被 害	野兎・鹿の被害は特に無かった。植栽後にコウモリガやカミキリムシ類等の穿孔被害が発生した。(延べ駆除本数 コウモリガ：2 本、カミキリムシ類 190 本)	

クスノキ 現存率



【現存率】

植栽後 2~3 年目に凍霜害等が発生し植栽木の約半数が枯死したため、平成 10 年 3 月に 60 本の補植を実行した。また、コウモリガやカミキリムシ類の穿孔被害による枯死も発生した。平成 18 年度以降は穿孔被害による枯死が減少した。

林内の照度調整を図るため平成 15 年、16 年、17 年、18 年、20 年度に本数調整伐を実施した。

平成 26 年度に毎木調査を実施した結果、現存率は 24.1%であった。

※ 赤線は、選定した調査木から毎木調査へと測定方法を変更したため、データの連続性はない。

【根元・胸高直径】

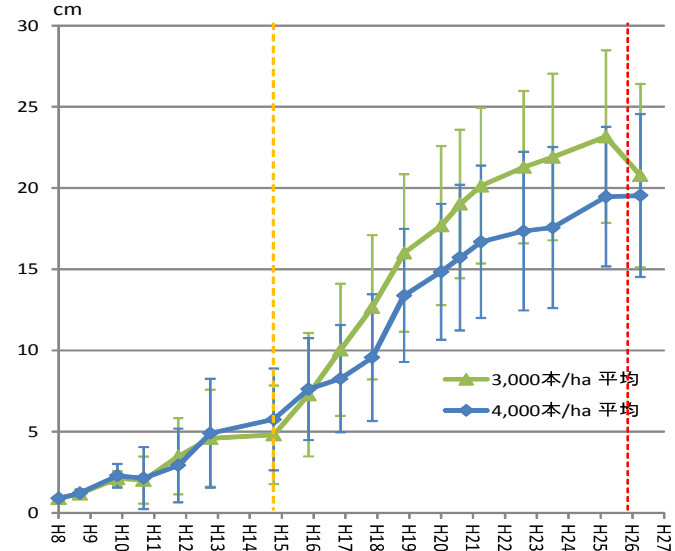
3,000 本/ha の方がやや良好である。

平成 26 年度に毎木調査を実施した結果、3,000 本/ha の平均胸高直径は 20.77 cmであり、4,000 本/ha の平均胸高直径は 19.54 cmであった。

※ 赤線は、選定した調査木から毎木調査へと測定方法を変更したため、データの連続性はない。

※ オレンジ線は、根元から胸高へと測定箇所変更のため、データの連続性はない。

クスノキ 根元・胸高直径



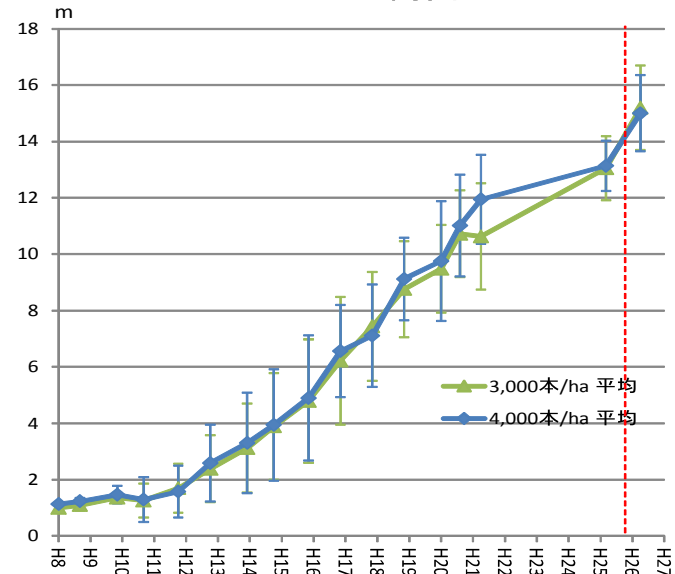
【樹 高】

4,000 本/ha と 3,000 本/ha はともに同程度の成長をしている。

平成 26 年度に毎木調査を実施した結果、3,000 本/ha の平均樹高は 15.20m であり、4,000 本/ha の平均樹高は 15.00m であった。

※ 赤線は、選定した調査木から毎木調査へと測定方法を変更したため、データの連続性はない。

クスノキ 樹高



《プチ情報》

クスノキは樹齢がたいへん長いことから、神社・仏閣には多く植栽され現在も大木が多い。

日本最大のクスノキは、鹿児島県蒲生八幡神社の「蒲生の大楠」(幹周 24.2m)で、幹周の上では全樹種を通じて日本最大の巨木である。他に、特にクスノキが多い神社として、福岡県宇美八幡宮(国指定 2 本/県指定 25 本、幹周 5m~9.9m 9 本、10m~14.9m 1 本、15m 以上 2 本)、愛媛県大山祇神社(国指定 38 本/県指定 1 本、幹周 5m~9.9m 10 本超、10m~14.9m 2 本、15m 以上 1 本)が挙げられる。台湾には和社神木という世界最大級のクスノキがあり、幹周 16.2m、樹高 44m を測る。この樹は太い主幹が 20m 以上も立ち上がる他にあまりない樹形をしている。

木全体に樟脳を含み香気を放ち材は成長の早い割には堅いので古くから仏像・仏壇・器物類・高級家具材・床柱・欄間はどの建築装飾材として愛用されている。木魚にするとまろやかなこもった音を発し最上の木材とされる。戦前は樟脳を採るための資源植物として造林も行われたが、戦後合成樟脳が普及し天然樟脳の生産は皆無となっている。

近年は各種公害・排気ガスに強く、移植にも強いことから公園樹・街路樹として人気が高い。